

私たちは、東京の水辺を豊かにする活動に取り組んでいます



東京INNERハーバー連絡会議は私たちが構成されています

(株)IHI (株)NTT都市開発 (株)江間忠ホールディングス (株)大林組
鹿島建設(株) 清水建設(株) 大成建設(株) 東京ガス豊洲開発(株) 東京電力(株)
(独)都市再生機構 三井不動産(株) 三菱地所(株) (12社 五十音順)

Tokyo Inner Harbor 東京INNERハーバー連絡会議

〒103-0028 東京都中央区八重洲 1-3-7
八重洲ファーストフィナンシャルビル 18 階
電話 03-5200-8655
<http://www.tokyo-innerharbor.com>

東京INNERハーバー構想



contents

“東京INNERハーバー構想”と“コンセプト”	1
“東京INNERハーバー構想”の7つの視点	3
視点1 “過去を振り返って将来のあり方を探る”	5
視点2 “国際都市東京でのINNERハーバーの位置づけを探る”	7
視点3 “海からの視点で将来のあり方を探る”	9
視点4 “スポーツ利用の可能性を探る”	11
視点5 “環境的な価値を探る”	13
視点6 “観光拠点としての価値を探る”	15
視点7 “東京湾におけるエリア特性に応じた整備課題を探る”	17

“東京INNERハーバー構想”と“コンセプト”

私たちは、「水と陸を結ぶ」5つのコンセプトから東京INNERハーバー構想を提案します。
そして「東京の新しい玄関口」にふさわしいまちづくりを目指します。

東京INNERハーバー構想



魅力と活力にあふれ、働き、学び、住み、食べ、遊ぶ
ことのできる複合的なまちづくりを目指します。

構想実現に向けた5つのコンセプト

【Concept 1】

東京の“交通利便性を高めるみちづくり”を目指します



【Concept 2】

東京の“顔となる水辺づくり”を目指します



【Concept 3】

東京の“水辺でスポーツを楽しむ環境づくり”を目指します



【Concept 4】

東京の“海のエンターテインメントの舞台”を目指します



【Concept 5】

東京の“水と緑の回廊を先導する拠点”を目指します



“東京インナーハーバー構想”の7つの視点

私たちは、東京インナーハーバー構想を提案するにあたって、7つの視点から「東京の新しい玄関口」となるための将来のあり方を探ります。

私たちが将来構想を提案する2つの目的

- ① 晴海・東雲運河を玄関口にふさわしい設えにする
 - ② 都心の水際線のあるべき姿を提案する
- ・東京、羽田、成田への交通機能を強化
 - ・水辺と都市機能を結ぶ、新しい環境の創出
 - ・機能の転換期を迎えた中でのあり方
 - ・水辺を活用した都市のにぎわい



晴海・豊洲／東京インナーハーバー遠景



晴海トリトン／「桜の散歩道」と「花・緑・水のテラス」

東京インナーハーバー構想の基本的考え方

- ① 環境や景観に配慮した美しいまちづくり
- ② 地域の回遊性を確保した一体的なまちづくり
- ③ 水域・水辺を積極的に活用したまちづくり
- ④ 安全に安心して過ごせるまちづくり



シドニー／ダーリングハーバー



ボストン／クインシーマーケット

東京インナーハーバーの将来構想を探る7つの視点

視点1 “過去を振り返って将来のあり方を探る”

東京インナーハーバーが、過去どのように活用されてきたのかを振り返り、歴史・文化を継承する将来のあり方を探ります。

視点2 “国際都市東京でのインナーハーバーの位置づけを探る”

東京インナーハーバーが、成田に加え羽田空港の国際ハブ化に向けて、陸・海・空を結ぶ国際都市東京の交通拠点としてのあり方を探ります。

視点3 “海からの視点で将来のあり方を探る”

運河や海に周囲を囲まれた立地であることを活かして、水から陸へと人を結ぶ、インナーハーバーだからこそできる将来のあり方を探ります。

視点4 “スポーツ利用の可能性を探る”

都心で身近に水上スポーツを楽しむことができる好立地を活かし、東京インナーハーバーの水域を開放することで生まれる、多様なスポーツを楽しめるあり方を探ります。

視点5 “環境的な価値を探る”

水辺の景観や防災機能、周囲を取り巻く自然環境への配慮を評価することで、東京インナーハーバーが持つ魅力を探ります。

視点6 “観光拠点としての価値を探る”

東京インナーハーバーが東京の新たな観光拠点として、日本のみならず世界にアピールしていくための観光資源を探ります。

視点7 “東京湾におけるエリア特性に応じた整備課題を探る”

東京インナーハーバーのゾーニング特性を整理して、水と陸を結ぶ新しい環境の創出を目指すまちづくりの課題を探ります。

視点1 “過去を振り返って将来のあり方を探る”

東京インナーハーバーが、過去どのように活用されてきたのかを振り返り、歴史・文化を継承する将来のあり方を探ります。

江戸時代、物流手段として中心の役割を果たした水運

江戸は、水運によって大きく発展した歴史があります。将来に向けて、晴海、豊洲の水域を活用した水辺のにぎわいや、新しい水上交通の導入を提案し、東京インナーハーバーが「水の都」再生の先駆けとなることを目指します。



広重『名所江戸百景』より「日本橋雪晴」。当時、水運がいかに盛んだったかがわかります。



広重『東都名所』より「隅田川渡場の図」。橋が少なかったため、水運を利用した渡し舟が盛んでした。

昭和の月島の主な交通手段として活躍した都電

当時、月島の人々の交通は都電により大変便利になりましたが、昭和43年に都電の姿は消えてしまいました。近年、新しい都市交通システムとして注目を集めているLRTなどの導入を提案し、東京インナーハーバーへの交通の便がより良くなることを目指します。



交通事情再整備という理由のため、月島から姿を消した都電28系統の最終装飾電車。



パルセロナの市街地を走るLRT。環境や人にやさしい新交通として整備が進められています。

昭和の日本経済を支えた、臨海工業地帯と港湾機能

高度経済成長期における東京湾岸部は、東京のみならず日本の産業と経済を支える拠点として整備、発展してきました。現在、晴海と豊洲は工業・港湾機能から都市機能へと目覚ましい変貌を遂げ、今後は水際線を開放し、水と陸を結ぶ新しい環境の創出を目指します。



大型貨物船が数珠繋ぎとなって荷揚げを待つ、晴海埠頭と芝浦埠頭の様子。



都市化が進む晴海、豊洲。超高層マンションの建設やオフィスビルの建設が今も進んでいます。

幻の万国博覧会

昭和15年、東京では万国博覧会の開催が決定され、万博の会場は現在の晴海と豊洲で計画されていました。万博は入場券まで売り出されていましたが、戦争により中止を余儀なくされ、ついに払い戻しのないまま終わりを迎えました。



朝日新聞創刊50周年を記念して、万国博覧会が年賀状として発行した絵葉書。



当時売り出された入場券。この入場券は大阪万博、愛知万博の入場券としても使用できました。

視点2 “国際都市東京でのインナーハーバーの位置づけを探る”

東京インナーハーバーが、成田に加え羽田空港の国際ハブ化に向けて、陸・海・空を結ぶ国際都市東京の交通拠点としてのあり方を探ります。

社会構造の変化から探る将来のあり方

〔港湾・産業拠点から都市機能への変化〕

高度経済成長期における東京港湾部は、東京のみならず、日本の経済を支える港湾・産業拠点として整備、発展しました。

その中でも豊洲、東雲は火力発電所、造船工場、鉄工所、製材所、貯木場などがひしめく産業基地として日本の経済を支え、晴海埠頭は港湾機能の核として大きな役割を果たしました。

東京臨海地域は、平成14年に都市再生緊急整備地域の指定を受け、現在は港湾・産業拠点から都市機能へと変貌を遂げ、超高層マンションやレジャー施設、文化施設などが整備され、東京の新しい顔として発展を続けています。



再開発前の豊洲2・3丁目（IHIの旧造船所）



再開発後の豊洲2・3丁目

〔国際都市にふさわしい交通拠点のあり方を探る〕
都心から有明を結ぶ交通軸を強化することは、羽田空港国際ハブ化を支えるとともに、東京臨海地域に国際都市東京の交通拠点を形成し、国内のみならず海外からも多くの来街者が訪れる地域になると考えられます。

東京インナーハーバーエリアでは、交通軸を強化する課題に取り組みながら、新しい玄関口にふさわしい都市景観を持つ拠点開発と魅力的な水辺空間づくりを提案して水と陸を結ぶ新しい環境の創出を目指します。

また、東京の水辺に親しんでもらうとともに地域の回遊性を高めるため、より身近な水上交通を提案して開かれた水上のみちづくりを目指します。



陸・海・空を結ぶ交通拠点のイメージ

海外のインナーハーバー事例

〔オーストラリア・シドニー〕

シドニーは、オーストラリア大陸南東岸のポート・ジャクソン湾（シドニー湾）およびボタニー湾に面した、港湾都市として知られる一方で、壮大な自然に囲まれた豊かな環境を持っています。空港からのアクセスも良く、市内は高速道路、鉄道、フェリーの広範囲に及ぶ交通網が整備され、オーストラリアの玄関口として機能しています。メルボルンとともに、オーストラリアの経済、交通、流通、文化の中心であり、オセアニアを代表する世界都市でもあります。また、オペラハウスやハーバーブリッジなど、多くの有名な観光資源を有しており、シドニーは世界で最も美しい都市のひとつとも言われています。



海から見る景観にも配慮したまちづくり



ハーバーブリッジとオペラハウス

〔アメリカ・ボストン〕

ボストンは、この地でアメリカ独立宣言が発せられた歴史を持ち、アメリカで最も古い都市の一つです。また市域の半分近くを水面が占めており、まさに水辺に開かれた都市といえます。貿易港として発展したボストンは、1950年代に産業の空洞化が始まりましたが、市は都市再開発公社を設立して再開発をすることで衰退期を乗り越えることができました。

1970年以降は好況に転じ、空港と都心部を結ぶ交通網が整備され、現在では学術・科学技術・政治の中心地となり、新産業を創出することを目的に、様々な再開発計画が推進されています。



水と緑に囲まれた美しい景観



水際線の開放とウォーターフロント開発

視 点 3 “海からの視点で将来のあり方を探る”

運河や海に周囲を囲まれた立地であることを活かして、水から陸へと人を結ぶ、インナーハーバーだからこそできる将来のあり方を探ります。

海からの景観

普段、私たちがまちの景観を見る際、陸からがほとんどだと言っても過言ではありません。東京インナーハーバーは海からの景観にも配慮して、美しいスカイラインの形成や、豊かな緑と一体となった、きれいな水辺づくりを目指します。



水上バスで海から見た、緑豊かな晴海埠頭の景観。



海からの景観を意識したニューヨークの住宅。

水辺のプロムナードと水上交通

水辺のプロムナードと都市活動エリアを結ぶ人が歩ける空間の確保や、わかりやすいサインを導入し、どこからでも水辺のプロムナードに入れる環境を目指します。また晴海と豊洲の水際空間を結ぶ大きな役割として、気軽に利用できる水上交通の実現を目指します。



晴海2丁目の水辺のプロムナード（施工中）。



船が接岸できるシドニーのダーリングハーバー。

水辺を開放することで創出される親水性

将来の東京インナーハーバーでは水辺を開放することで、東京の水辺に親しんでもらえるまちづくりを目指します。そのために私たちは水辺をより快適に、より美しくしていくことで、東京インナーハーバーがいかに魅力あるエリアであるかをアピールしていきます。



水辺に隣接する豊洲公園でくつろぐ人々。



水辺の開放から創出された晴海運河の景観。

海のエンターテイメント

東京インナーハーバーでは、水辺を積極的に活かしたイベントや水上交通による観光ツアーなどを推進していきます。このような海のエンターテイメントは、水辺の持つ魅力を引き出し、活力のあるまちづくりに大きな役割を果たします。



ららぽーと豊洲から出発する水上バス「ヒミコ」。



水陸両用車を活用した、ボストンのダックツアー。

視点4 “スポーツ利用の可能性を探る”

都心で身近に水上スポーツを楽しむことができる好立地を活かし、東京インナーハーバーの水域を開放することで生まれる多様なスポーツを楽しめるあり方を探ります。

スポーツ利用により付加価値を高める水辺のプロムナード

東京インナーハーバーの水辺に整備するプロムナードは、水辺の開放感を楽しむ快適な歩行空間としてだけでなく、ジョギングコースとサイクリングコースを水辺のプロムナードに整備し、身近で気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりを目指します。



水辺のプロムナードでは、気軽にウォーキングやジョギングを楽しむことができます。



サイクリングロードは自転車専用道を設けることで歩行者との共存を図り、地域の回遊性を高めます。

水域の開放により生まれる、新たな水上スポーツの可能性

晴海大橋や有明北橋の渡りぞめにウェイクボードやカヌーの水上スポーツデモンストレーションを行い、その魅力を発見することができました。東京インナーハーバーが日常的に水上スポーツを楽しめる新しいエリアになるよう、水域の開放を求めています。



イベントで行われた水上スポーツデモンストレーションの様子。



高齢者や身障者も水上スポーツを楽しむことができるアクセスディンギー。

将来構想における東京インナーハーバー・スポーツマップ

東京インナーハーバーエリアでは、水辺のプロムナードやサイクリングロード、水域の開放など、水と陸を結ぶ新しい環境を創出するとともに、多様なスポーツを誰でも気軽に楽しむことができる土地利用を提案します。



東京インナーハーバー・スポーツ利用マップ

視 点 5 “環境的な価値を探る”

水辺の景観や防災機能、周囲を取り巻く自然環境への配慮を評価することで、東京インナーハーバーが持つ魅力を探ります。

水辺の開放感を活かした豊かな景観・眺望

東京インナーハーバーは水と緑に囲まれ、水辺の開放感を有する稀有な環境を持っています。近年では東京湾や運河を眺望する超高層マンションや、東京を代表するウォーターフロントとして水辺を活用した豊洲のまち開きなど、東京の新しい魅力を生み出しています。



晴海トリトンスクエアから朝潮運河を眺望した風景。



緑豊かな水辺のプロムナードが良好な景観を創出している、シドニーのハーバーサイド。

豊かな緑の拠点

東京インナーハーバーは水だけではなく、広大な緑にも囲まれています。中でも代表的な東雲運河の森を貴重な資源のひとつと捉え、より美しいものにしていきます。また晴海通りや環状2号線の街路樹を軸に豊かな緑を創出する環境先進地区として期待されています。



豊かな自然の風景を持つ、東雲運河の森。



ビルとビルの間に設けた緑地帯。

防災機能の確保

晴海、豊洲は高潮などの災害から都市空間を守るため、海岸保全区域として指定され、後背地の開発に際しては安全に配慮した整備を行うとされています。また、震災時は水上交通による物資・人員輸送が期待され、東京の防災拠点としても機能します。



災害時に物資・人員輸送の拠点として機能する、ららぽーと豊洲のドック。



晴海会場で行われた中央区・江東区合同総合防災訓練の様子。

自然環境の創出

晴海3丁目では、環境配慮型護岸の整備が進められています。カニなどの水生生物が生息しやすい近自然型ブロックを用い、豊かな水域の生態系の実現と水質の改善効果が期待されています。



晴海3丁目の環境配慮型護岸（カニ護岸）。



水辺に面した住宅に自然環境の創出を図る、ゴールドコーストのパラダイスウォータース。

視点7 “東京湾におけるエリア特性に応じた整備課題を探る”

東京インナーハーバーのゾーニング特性を整理して、水と陸を結ぶ、新しい環境の創出を目指すまちづくりの課題を探ります。

水辺のプロムナードエリア

- ・東京の水辺に親しみやすくなる水辺のプロムナード整備
- ・回遊性を高めるためのサイクリングロード整備



シドニー・水辺のプロムナード

都市活動エリア

- ・都市活動をより活性化するにぎわいと憩いの環境づくり
- ・後背地となる水辺のプロムナードへの動線確保



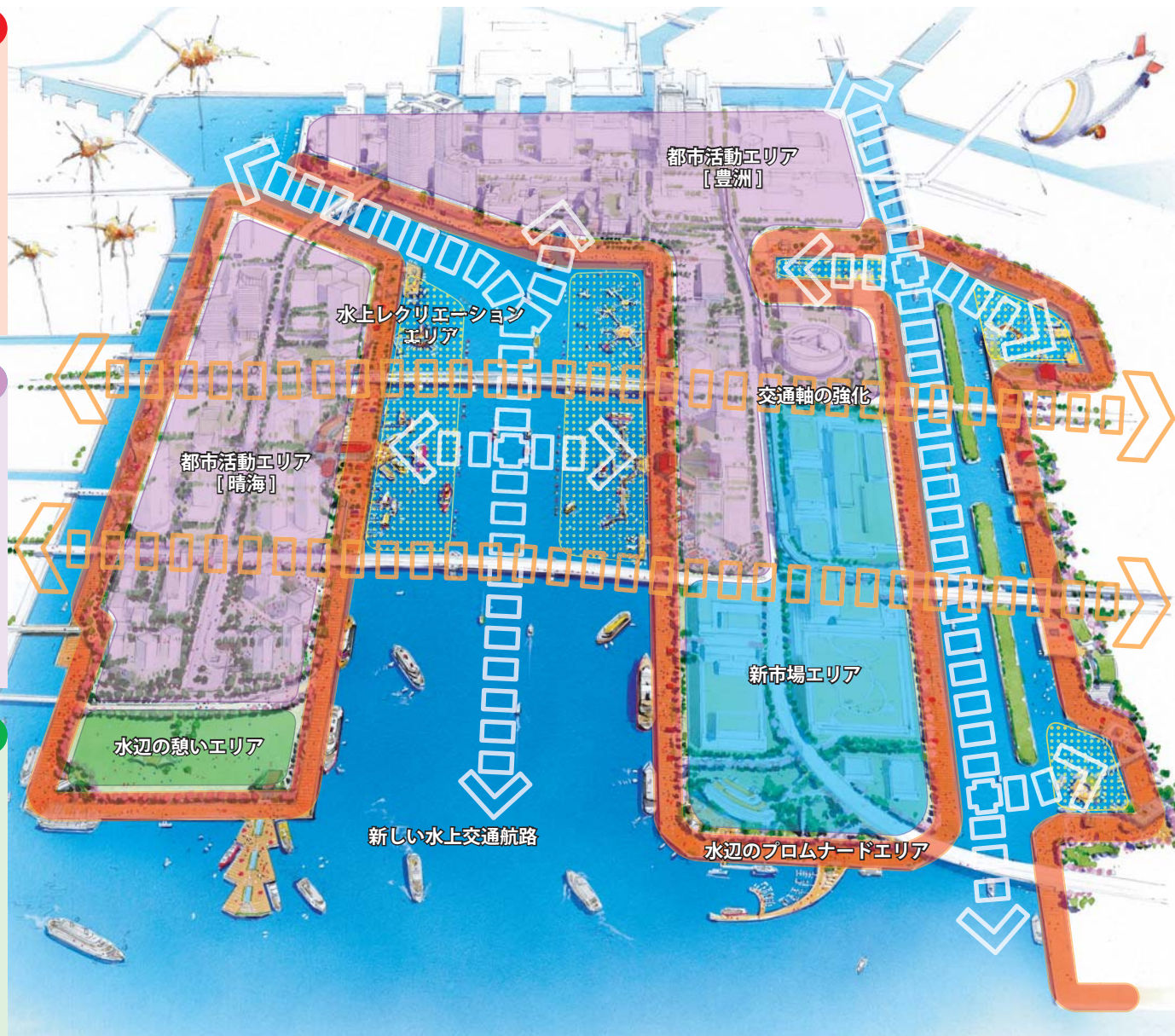
NYC・都市空間の憩いの場

水辺の憩いエリア

- ・水と緑の潤いあふれる、憩いの環境づくり
- ・プロムナードと一体的な広場空間の整備



NYC・水辺の憩いの場



水上レクリエーションエリア

- ・水辺のプロムナード沿いのにぎわいを創出する水上レストランやマリーナの整備
- ・水域イベントの促進



ロンドン・水上レストラン

新市場エリア

- ・新しいにぎわいを生み出す豊洲新市場
- ・環境へ配慮した、温室効果ガス削減や大規模緑化整備



バルセロナ・市場のにぎわい

交通軸の強化と水上交通

- ・交通利便性を高める道路、LRT、地下鉄の整備
- ・東京の水辺に親しみ、気軽に利用できる水上交通の導入



ボストン・水上タクシー